

会 議 記 録			
会議の名称	予算特別委員会 総務文教分科会	会議場所	第3委員会室
		担当職員	数井
日 時	令和5年3月20日（月曜日）	開 議	午後3時00分
		閉 議	午後5時38分
出席委員	◎松山 ○三上 竹内 小林 浅田 原野 福井 山本		
理事者 出席者	垣見市長公室長 齊藤自治防災課副課長防災・危機管理係長事務取扱		
事務局	数井事務局次長		
傍聴者	市民 0名	報道関係者 0名	議員0名

会 議 の 概 要

15:00～

【委員間討議】

<松山委員長>

委員間討議としたい案件はあるか。

<福井委員>

図書館中央館について、リニューアル工事をするのはよいが、亀岡市公共施設等総合管理計画によれば、図書館中央館は1980年に建築され、40年以上経過する中で、耐用年数が60年間となっており、長寿命化工事をどうしていくのか気になっている。

<松山委員長>

福井委員から図書館中央館の長寿命化の観点から、委員間討議したいとのことである。ほかにあるか。

<三上副委員長>

本日野水池跡地、指定緊急避難場所予定地を視察してきたが、施設の費用対効果や災害時の機能性など、各委員の意見が聞きたい。

<松山委員長>

ほかにあるか。

<原野委員>

広報経費、ローカルプレスについて、市長と所管部署の考えが統一されていないように感じられ、各委員の意見を聞きたい。また、本日視察した現育親中学校について、小学生が階段を上がって通学できるのか違和感を覚えており、委員間討議したい。

<松山委員長>

それでは、福井委員からあった図書館中央館の長寿命化工事、三上副委員長からあ

った指定緊急避難場所予定地の整備状況、原野委員からあった広報経費、ローカルプレスと育親学園に係る通学路等の問題について委員間討議を実施する。まず、図書館中央館について意見はあるか。

<福井委員>

リニューアル工事の内容についてはそれなりに納得しているところであるが、亀岡市公共施設等総合管理計画では、新しく建てるよりも長寿命化工事を行う方針であることから、耐震化工事しかできていない現状は不十分であり、指摘要望で長寿命化工事に触れていくべきと考えている

<三上副委員長>

なぜこのリニューアル工事が必要なのか、明確な根拠の説明はなかったように感じる。

<福井委員>

一つは図書館中央館の使い勝手が悪くなっているため、レイアウト面での変更が必要であること、もう一つは、ガレリアかめおか分館を子ども図書館に変えるために、中央館の機能強化が必要であることと思っている。

<竹内委員>

これまで長寿命化工事はしていないとの答弁であったと思う。

<福井委員>

長寿命化工事はしていないが、平成24年頃に耐震化工事をしたとのことであった。

<小林委員>

長寿命化工事には別途予算が必要であると思うが。

<福井委員>

今から長寿命化のための予算を増やすことはできないが、今回リニューアル工事を行うのであれば、60年の耐用年数を超え、80年以上使用可能な長寿命化工事を検討すべきである。

<松山委員長>

次に指定緊急避難場所の整備について、意見はあるか。

<三上副委員長>

大地震が発生したときはこの避難場所へ行くこともできないため、このような車中泊避難場所が本当に必要なのか疑問がある。

<福井委員>

地震発生直後の移動は難しいが、道路の仮復旧後に車中泊避難所として活用できると思う。課題として、もとは池であったために、地盤調査をしっかりと進めてほしい。

<三上副委員長>

会派の中で出た意見として、車に乗れる人はどこへでも動けるが、そうではない人たちは地域で避難しなければならず、そのために地域の避難所整備が優先されるべきとのことである。

<浅田委員>

今日、ペットの問題などいろいろなパターンの避難方法が増えてきている中で、トイレの設置や水防倉庫、備蓄倉庫の整備により、多様な対応ができると考えている。

<山本委員>

同じく、備蓄倉庫やトイレ等も整備し、有事の際の拠点としての活用を願っている。それだけでなく、民間企業などと協定を結んでおくことも必要である。また、車中

泊におけるエコノミークラス症候群対策や食事の問題など、いろいろなことを想定いただきたく考えている。

<小林委員>

阪神淡路大震災のような災害が起こった場合、地域の避難所に避難できる人には限界があり、家から遠くても行く場所がないことを考えれば、このような施設があることは望ましい。

<松山委員長>

今幾つか意見があったが、整備に係る実施設計業務、建築関係について、委員長報告の中に、どのように盛り込んでいくか検討しなくてはならない。

<福井委員>

京都縦貫自動車道の側道へ接続する道路の用地として、田を購入する話であったと思うが、当該土地は寄附されたと聞いている。今後は、液状化の懸念を含めて地盤調査を進めてもらいたい。

<竹内委員>

実際に整備工事は施工されているため、平時における今後の活用が大切である。

<三上副委員長>

個人的にはセーフコミュニティの考え方を重要視しており、地域で助け合って命を守ることが大切である。セーフコミュニティに取り組んでいる亀岡市の方向性と、この指定緊急避難場所を整備することとの整合性が合っていないと感じている。車中泊が必要なときは、地域の中で企業とも連携し、車中泊ができる場所を確保すればよいと思っている。

<福井委員>

各地域における避難施設の環境改善とこの指定緊急避難場所の整備は別問題であり、避難施設の改善も平行して進める中で、この指定緊急避難場所も一つの大きな避難地として必要であると思っている。

<三上副委員長>

今各委員から聞いたところでは、この予算については妥当で必要な拠点として考えておられるようなので、指摘を付けるかどうかはまた検討いただければと思う。

<松山委員長>

今後の話として、地盤調査の結果をしっかりと委員会に報告していただくことは全員の共通認識かと思う。また、災害時のフォロー体制や運営面など、不確かな点があるため、担当課から再度聞き取りしたいと思うがどうか。

—全員了—

(齊藤自治防災課副課長 入室)

<松山委員長>

自治防災課副課長に出席いただいた。本日、現地視察で説明いただいたところであるが、整備工事における地盤調査の状況など、再度説明願う。

<自治防災課副課長>

元々が池であったため、地盤調査の必要性は感じており、地盤調査の箇所としては、予算の関係から、建物を建てる場所の下を調査地として進める予定である。その建物を建てる場所が決まり次第、建築の実施設計の中で、効率的に地盤調査を行い、

地盤改良の必要性も含めて調査していく。

<小林委員>

管理面は自治防災課が所管と思うが、観光などとの連携はどうか。

<自治防災課副課長>

現在普通財産であるが、行政財産として自治防災課に所管替えをしていく予定であり、観光などで使用する際には、他の行政財産と同様に、行政財産の目的外使用として、条例を設けて管理、運用していく計画である。

(齊藤自治防災課副課長 退室)

<松山委員長>

次に広報経費、ローカルプレス発行業務委託料について委員間討議を行う。意見あるか。

<福井委員>

原野委員からあったように、課長と市長の答弁の違いがあり、困惑している。

<竹内委員>

広報経費で上がっているが、結局何がしたいか分からない点も多く、今一度市の中できっちり整理してほしいと感じている。

<松山委員長>

所管からの質疑と市長質疑を通じて、円山応挙を主軸とした展開か、犬などのペットと暮らしやすいまちを前面に押し出しているのか、各委員が思う点を出していただき、議論する中で整理していきたい。

<原野委員>

委員会での質疑では、犬の飼い方やマナーの話があり、なぜ犬なのかとの話になったとき、円山応挙を主軸として新しい切り口で犬と暮らしやすいまちと話されたと思っているが、市長質疑では、犬の飼い方やマナーなど、犬を飼うときに既に周知されていることが中心の答弁であったので、わざわざこの事業をする意味が不明である。円山応挙を軸として取り組むほうが意味があると思っている。

<小林委員>

犬と暮らしやすいまちとのテーマであるが、最終的には、なぜ犬なのかという点に尽きるとしている。

<浅田委員>

目的としては、市民にとってよりよい暮らしにつなげることであり、犬を取り上げたと思っているが、分からない点が多い。

<福井委員>

この議案の一番の難点は、市長が言ったことはある程度分かるが、その意義や目的が本当に大切なのかという点であると思う。今後の展開として、例えば市民への周知方法として、課長は全戸へ回覧すると言ったが、市長は回覧しないと言う。予算250万円に対し、印刷した分の活用方法など不明なところがあり、予算特別委員会として、本当にそれでいいのかという話になってしまう。つまり、事業目的は分かっていたか分かっていないかは別にして、発行するまでに内容は精査されるはずなので、常に委員会に報告するよう求めるしかないと考えている。

<山本委員>

確かに市長質疑と課長の説明では違うことがあったが、市長はこの事業の目的として、犬の嫌いな方でも生活できるよう重点を置くとの発言もあり、課長からはターゲットを絞って犬好きの方に情報を発信するという計画の話があったので、事業内容については理解している。

<松山委員長>

我々にも市民に対して説明責任があるため、執行部には市としての方向性を持って効果を得られる点を説明してもらう必要があると思っており、このままでは予算特別委員会全体会で分科会として報告することができない。また、これは執行部だけで考えられた事業ではなく、朝日放送と市の若手職員の方々がワーキンググループを組んで作成してきたものであり、そのワーキンググループでの議論を経て、市長公室としても改善を重ねながら、予算に反映していると考えられるため、市長公室長から改めて説明願うこととしてよいか。

—全員了—

(垣見市長公室長 入室)

<松山委員長>

市長公市長に出席いただいた。分科会における所管の説明と市長質疑の内容が少し違っているように感じている。この事業は、若手職員の方々がワーキンググループを組んで取り組み、所管の職員がブラッシュアップを加えて予算として提案されたと認識しているが、その上で、市長公室として、この事業の目的と市としての効果を再度説明願う。

<市長公室長>

そのワーキンググループから市長へは随時報告があり、その中で予算化をしている。現在もグループで随時検討を重ねながら、この事業を進めているところであるが、市としての方向性もあり、市長の説明との整合性が取れていなかったことは申し訳なく思っている。ただ、市長の言葉は市としての決定権を持つ重要なものであり、回覧かどうかなどの配布方法については、市長の説明のとおりに進めたい。この事業の予算化については、若手の職員の中から発案された、犬と暮らしやすいまちが人も住みやすいまちであるという新たな切り口で、市民にこのまちのよさを伝えていきたいというのが出発点である。内容については、今後も若手職員のグループの意見を尊重しつつ、グループ活動を続けながら詰めていきたいと思っており、詳細はまだ決まっていない状況ではあるが、市長からあったように、亀岡市として、犬と暮らすことについては、犬を飼っていない方にも理解を得る必要がある、全ての方に、その暮らしやすさを感じてもらわないといけないという基本的な部分を押さえながら、亀岡の新たな魅力として発信していきたいと考えている。本日の市長質疑でも市長が申したように、亀岡と犬の関わりを尊重する中で、犬を飼うことについての環境や実態について調査し、それに基づく犬を飼う人も飼わない人も幸せに感じる環境を目指して、この広報を発信していきたいと考えており、内容については、適宜議会にも報告させていただく予定である

<松山委員長>

質疑はあるか。

<福井委員>

もう円山応挙とかは置いておいて、今、室長からあった考えのとおりだと思う。ただ、250万円の経費で8ページの冊子を作成するとのことであるが、例えばその内容がどのようなものなのか、少なくとも構想の提供があってもよかったのではないかと思っている。若手が頑張っていることや最終的にシティプロモーションにつながるという意図は理解できることから、8ページの内容を概要でよいので示していただき説明いただいたほうが、審査するほうからすればそのようにしていただき良かったと思っている。

<市長公室長>

内容はまだはっきり決まっておらず、犬と亀というタイトルで、犬との素敵な生き方という形でPRし、その中には、犬と暮らしやすいまち亀岡の紹介、ドッグランや一緒に入店できる店などの情報を掲載し、ほかにマナーや手続きなどについて啓発していく予定である。

<福井委員>

紙とデジタル版を両方作成するともあったが、250万円の内訳は分かるか。

<市長公室長>

今資料を持ち合せていない。

<山本委員>

犬を飼っていない方、飼っている方全ての方に暮らしやすさを感じてもらわなければならないため、冊子の中にマナーや手続きの紹介はするとのことであったか。

<市長公室長>

基本的に犬を飼う際には犬の手帳というマナーの冊子を必ず渡しているが、このローカルプレスにも内容を精査して掲載していきたいと考えている。

<三上副委員長>

本事業は、広報経費として計上されており、市の魅力を打ち出すための経費だと思っていたところ、犬の飼い方など環境部署の所管に係る取組の説明がされたため、混乱した。実際に来年度予算で犬と暮らしやすいまち亀岡事業アンケート郵送代が環境政策課に計上されている。予算としては、朝日放送と若手の職員のワーキンググループの提案が先であり、環境政策課から挙がってきた事業ではないと思っており、こういった内容となった経過や環境政策課との関係などを説明願う。

<市長公室長>

朝日放送とのグループワークから4件の提案があり、その中の1件がこの事業で、環境政策課に意見を聞く中で、犬を飼っていない人の理解も必要でありマナー啓発の内容を盛り込んでほしいとのことであった。冊子をつくるためにはアンケートによる意向調査が必要となり、環境政策課に郵送代の予算計上がされたという流れである。

<三上副委員長>

市長公室としては、犬と過ごしやすい、暮らしやすいまちをつくるのが目的ではなく、亀岡の魅力をPRすることが目的だと思うがどうか。

<市長公室長>

亀岡のすばらしさを伝える方法の一つとして、犬を使うものである。

<松山委員長>

ほかになければ室長は退席いただいて結構である。

(市長公室長 退席)

(休憩)

16:30～16:40

<委員長>

育親学園について委員間討議を行う。意見はあるか。

<原野委員>

本日現地の視察をしたが、やはり階段を低学年に昇降させるのは心配である。各委員の意見が聞きたい。

<小林委員>

育親学園創設に係るブロック協議会において、PTAから意見があり、小学校一年生にとって適切かどうかの議論がされている。例えば、スクールバスで階段下から校舎前まで上る方法もあるが、徒歩通学の一年生もあり、どのような方法がよいか検討中とののである。

<浅田委員>

階段の改修は必要と感じており、特に雪の時期などの対応も考えておかなければならない。

<福井委員>

階段の横に、例えばみかん畑にあるようなレールを設け、荷物だけでも運ぶ方法もあると思う。

<三上副委員長>

この予算は育親学園通学路階段整備工事であることから、全ての子どもたちが安全に登ることができるようにする必要があると考えるが、実際に上ったところ、小学校低学年の子どもたちには適していないと感じた。いわゆるユニバーサルデザインとしての配慮がいると思う。

<山本委員>

実際に小学校低学年は体験しているのか。

<小林委員>

通学開始前に昇降体験はすると思う。

<山本委員>

本日の現地での説明では、階段のステップの部分の凹凸を取り除き、フラットにするとの工事内容であったが、それだけでは解決にならないと思っており、雨が降ったときは傘をさして登ることから、安全面に不安がある。

<竹内委員>

ある幼稚園が階段を改修するとき、半分は坂道とし、ボルダリングのような突起物を設けたところ、子どもたちに大変好評だったという話を聞いたことがある。現代の空間デザインのアプローチを取り入れることも検討していただきたい。

<松山委員長>

これまでの意見を整理すると、低学年にも上りやすい階段を絶対に整備すべきだということ、子どもたちに体験させて意見を聞いていくということなどがあった。これをもって委員間討議は終了する。17時を回っているが、本日採決まで進めてよいか。

—全員了—

(委員間討議終了)

(休憩)

17:05～17:15

【討論】

<委員長>

討論はあるか。

<三上副委員長>

第1号議案、一般会計予算、令和5年度予算案について、反対の立場で討論する。これまでの質疑の中でも述べてきたところであるが、多くの経費の中で疑義があり、もっと緊急性の高い事業に予算を使ってほしいとの思いである。

<福井委員>

第1号議案、一般会計予算、令和5年度予算案について、ふるさと納税の基金を活用しながら、市民福祉の増進につながる予算配分がされているため賛成の立場で討論する。

(討論終了)

【採決】

第1号議案 令和5年度亀岡市一般会計予算所管分

挙手多数 可決 (反対:三上委員)

第7号議案 令和5年度亀岡市曾我部山林事業特別会計予算

挙手全員 可決

第11号議案から第40号議案まで

令和5年度亀岡財産区ほか29財産区特別会計予算

挙手全員 可決

(採決終了)

【指摘要望】

<松山委員長>

分科会委員長報告の作成にあたり、当分科会として、特に全体会に報告すべき事項として、指摘要望などはあるか。

<福井委員>

指摘要望として、図書館中央館リニューアル工事について、長寿命化を視野に入れた工事としていただきたい。

<竹内委員>

指摘要望として、ローカルプレスの発行について、広報経費であることから、シティプロモーションにつながるように、また、進捗状況を随時議会に報告していただきたい。

<小林委員>

育親学園の通学路階段整備工事について、低学年への配慮に努めていただくように指摘要望に入れていただきたい。

<松山委員長>

今挙がった3点について、指摘要望事項としてよいか。

—全員了—

<松山委員長>

委員長報告の作成については正副委員長に一任いただく。次回の分科会は3月22日の水曜日、午前11時から開催して委員長報告の確認をいただく。本日は散会する。

散会 ～17:38